

件名	令和4年度地域密着型サービス事業の整備・運営事業者の公募結果について																		
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 介護保険課																		
内容	<p>地域密着型サービス事業の整備・運営事業者の公募について、結果を報告する。</p> <p><b>1 公募結果</b> 選定事業者なし</p> <p><b>2 申込事業者数</b></p> <table border="1"><thead><tr><th>No.</th><th>種類</th><th>募集数</th><th>申込数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>認知症高齢者グループホーム</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>2</td><td>小規模多機能型居宅介護</td><td>2</td><td>なし</td></tr><tr><td>3</td><td>看護小規模多機能型居宅介護</td><td>1</td><td>なし</td></tr></tbody></table> <p><b>3 選定審査会</b> (1) 第一次（書類審査） 令和4年8月30日（火） 認知症高齢者グループホームの公募において、1法人が第一次審査を通過した。 (2) 第二次（ヒアリング） 第二次審査前に、第一次審査を通過した法人が辞退したため、第二次審査は実施しなかった。</p> <p><b>4 その他</b> 事業者の応募が増加するよう、公募の実施方法について検討する。</p>			No.	種類	募集数	申込数	1	認知症高齢者グループホーム	1	1	2	小規模多機能型居宅介護	2	なし	3	看護小規模多機能型居宅介護	1	なし
No.	種類	募集数	申込数																
1	認知症高齢者グループホーム	1	1																
2	小規模多機能型居宅介護	2	なし																
3	看護小規模多機能型居宅介護	1	なし																

件名	令和4年度特別養護老人ホームの整備・運営事業者の公募結果について
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 介護保険課
内容	<p>特別養護老人ホームの整備・運営事業者の公募を行い、足立区地域密着型サービス等事業者選定等審査会による審査の結果、以下のとおり、民有地1か所、区有地1か所の事業者を選定したので報告する。</p> <p><b>1 民有地を活用した整備（令和4年6月公募、令和4年10月選定）</b></p> <p>(1) 選定事業者</p> <p>ア 事業者名 社会福祉法人経山会</p> <p>イ 所在地 岡山県総社市久米48-1</p> <p>(2) 申込事業者数 2事業者</p> <p>(3) 整備概要</p> <p>ア 整備地</p> <p>足立区花畑三丁目1-1～1-9（1-7除く）</p> <p>敷地面積 2545.95㎡</p> <p>イ 施設内容（予定）</p> <p>延床面積 約6418.85㎡</p> <p>6階建て、鉄骨造</p> <p>特別養護老人ホーム（153床）</p> <p>内訳：ユニット型個室 123床</p> <p>従来型多床室 30床</p> <p>併設：ショートステイ 15床</p> <p>防災倉庫</p> <p>防災拠点型地域交流スペース</p> <p>ウ 開設予定時期</p> <p>令和7年8月</p> <p><b>2 区有地を活用した整備（令和4年9月公募、令和5年1月選定）</b></p> <p>(1) 選定事業者</p> <p>ア 事業者名 社会福祉法人ファミリー</p> <p>イ 所在地 青森県三戸郡五戸町字姥堤34番1</p> <p>(2) 申込事業者数 7事業者</p> <p>(3) 整備概要</p> <p>ア 整備地（旧本木東小学校跡地）</p> <p>足立区本木一丁目448番4の一部</p> <p>敷地面積 約4996.79㎡</p> <p>イ 施設内容（予定）</p> <p>延べ床面積 約8348.83㎡</p>

6階建て、鉄筋コンクリート造  
特別養護老人ホーム（153床）

内訳：ユニット型個室 99床

従来型個室 9床

従来型多床室 45床

併設：ショートステイ 20床

認知症対応型通所介護

居宅介護支援事業所

防災倉庫

防災拠点型地域交流スペース

※ 6階建ての6階（830.64㎡）

※ 平時は、地域交流イベント、勉強会の開催や町会・自治会等への貸出、子どもの居場所づくり事業への協力として活用予定

※ 第一次避難所として指定予定

ウ 開設予定時期

令和7年12月

件名	認知症検診の実施について
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課
内容	<p>認知症の早期発見、早期対応の促進を目的に、東京都の補助金を活用した「認知症検診」を令和4年度から実施する。 他区では、都補助金を活用した「認知症検診」を11区で実施している。</p> <p><b>1 目的</b>                  (1) 検診で認知症の<u>早期診断と早期からの支援に繋ぐ</u>ことで、進行予防や治療によって改善を図る（＝<u>早期発見・早期支援の強化</u>）。                  (2) <u>認知症、介護及び社会資源に関する正しい知識の普及啓発</u>を行い、認知症の予防や早期発見の意識を高める（＝<u>普及啓発の強化</u>）。</p> <p><b>2 対象者</b>                  70歳となる区民で、認知症気づきのチェックリストで20点以上の方、又は20点未満でももの忘れが気になり受診を希望する方                  ※ 70歳の区民は、7,418人（令和4年4月1日時点）                  ※ 他区の受診率（対象者の1～2%）を参考にして、検診受診者数（個別検診及び集団検診の合計で定員350人）を決定した。</p> <p><b>3 実施スキーム</b>                  別添 資料4-1のとおり</p> <p><b>【足立区独自のポイント】</b>                  (1) 「個別検診」（定員150人）は近所の指定医療機関で受診でき、「集団検診」（定員200人）は、交通の便の良い会場で2日間実施し、タブレット端末の活用により気軽に脳の健康度を測定できる。いずれかの選択制で、受診がしやすい。                  (2) 検診では、認知症を早期発見するだけでなく、同時に実施する社会支援ニーズチェックにより、生活のしづらさも早期に把握する。                  (3) 検診結果に基づき、サポートが必要と判断された方に対して、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等による支援を実施することにより、地域での支援に繋げていく。</p> <p><b>4 実施時期（予定）</b>                  (1) 令和5年1月 検診案内                  (2) 令和5年3月 集団検診（2日間予定）                  (3) 令和5年4月～ 個別検診（認知症サポート医、もの忘れ相談医が在籍する医療機関の約30か所（想定）で実施）</p> <p><b>5 受診費用</b>                  自己負担なし</p>

# あたまの健康度測定 事業スキーム

資料 4-1

R 4 年度

1月 検診案内送付

3月以降 検診

検診後支援

## 検診案内

70歳 高齢者  
(R5.3.31現在)  
7,144 人

## 検診対象者

認知症  
気づきの  
チェックリスト  
20点以上  
+  
20点未満で  
検診希望  
(もの忘れが気になる人)  
計 500 人

希望制

・専用コールセンターで申込み  
・区から検診日時を通知

(算出根拠)  
年齢階級別の認知症有病率  
70~74歳 3.6%  
出典：日本医療研究開発機構 認知症研究開発事業「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究(研究代表者二宮教授)」より  
7,144 × 4% ÷ 300人  
(推定認知症高齢者数)  
+  
200人(概算見込検診希望者)  
= 500人

## 1 個別検診

想定 150 人  
(1) 問診 (HDS-RまたはMMSE)  
(2) 社会的支援ニーズの明確化

医療に関するニーズ有りと判断された人

福祉に関するニーズ有りと判断された人

現段階で支援の必要なし

## 2 集団検診

2日間 想定 200 人  
(1) 受付  
(2) のうKNOWガイダンス、健康ミニ講座  
(3) のうKNOW測定  
(4) 看護師による問診

### 【医療に関するニーズ】

- ① 認知症等の医学的診断
- ② 身体的健康状態の医学的評価
- ③ 継続医療の確保

### 【福祉に関するニーズ】

- ④ 生活支援
- ⑤ 家族支援
- ⑥ 居住支援
- ⑦ 介護保険サービスの利用支援
- ⑧ 経済的な支援
- ⑨ 権利擁護に関する支援

## (5) 医師からの助言

### 医療に関するニーズの確認

・気づきのチェックリスト20点以上  
・のうKNOW記憶カスコアC判定  
→東京都訪問看護ステーション協会宛てに「連絡票」を発行

正常な状態

ボーダーライン

### 福祉に関するニーズの確認

(6) 地域包括支援センター職員による個別健康相談(希望者)

3 検診を希望しない  
想定 150 人

都補助金 10/10 (R 6 年度まで)

● 認知症疾患医療センターによる診断・支援  
● 訪問看護ステーションによる支援  
最長 6 か月  
電話 面接 訪問  
電話相談 2~3回、  
訪問(30~60分)10回

● 地域包括支援センターによる支援  
本人の意思を尊重しながら社会的支援ニーズの調整

フォローアッププログラム  
● のうKNOW(のうノウ)測定  
● 医師・健康運動指導士・管理栄養士等による健康講座

一般財源から支出

件名	令和4年度「第41回足立区障がい者週間記念事業」の実施結果について												
所管部課	福祉部 障がい福祉センター												
内容	<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年足立区役所内で実施していた庁舎ホールでのイベントは中止とし、コロナ禍を踏まえた以下の内容を「第41回ADACHI障がい者アート展」として実施したため、その結果を報告する。</p> <p><b>1 作品展</b></p> <p>障がいのある方が制作した絵画や陶芸等の作品を足立区役所1階アトリウム（以下「アトリウム」という。）で令和4年12月2日（金）から8日（木）まで展示。新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策を施し、展示ブースの規模は縮小した。</p> <p>(1) 参加状況：45団体、個人2名（令和元年度：54団体、個人4名）</p> <p>(2) 作品数：434作品（令和元年度：906作品）</p> <p>参考：作品展来場者数推移</p> <table border="1" data-bbox="493 1099 1045 1413"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>来場者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30年度</td> <td>3,460</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>3,670</td> </tr> <tr> <td>R2年度</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>2,580</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ R4年度は作品展のみの来場者数。過去年度は作品展に合わせ実施したイベントへの来場を含む人数。</p> <p><b>2 デジタルアート</b></p> <p>障がいのある方が制作した絵画や陶芸等の作品を、区ホームページに掲載。足立区障がい者週間記念事業終了後も引き続き公開していく。</p> <p>閲覧数：2,248PV（ページビュー）</p> <p>12月2日から12月31日までの、作品掲載ページおよび電子ブックの合計閲覧数。</p> <p>※ R3年度：3,717PV。アート展を開催した令和3年12月3日から12月31日まで。</p> <p><b>3 グッズ配布</b></p> <p>令和3年度企画「デジタルアートミュージアム」に掲載された作品を盛り込みデザインされたポストカード4種を制作し、来場者に配布した。</p>	年 度	来場者数(人)	H30年度	3,460	R1年度	3,670	R2年度	—	R3年度	—	R4年度	2,580
年 度	来場者数(人)												
H30年度	3,460												
R1年度	3,670												
R2年度	—												
R3年度	—												
R4年度	2,580												

#### 4 お楽しみコーナー（販売）

障がいのある方の自主製品をアトリウムで令和4年12月2日（金）から5日（月）まで販売した。

（1）参加状況：9団体（令和元年度：11団体）

（2）出展物：手芸・お菓子など

#### 5 主な意見・感想

アトリウム来場者延べ1,322名が当企画に関するアンケートに回答。（一部要約）

（1）参加団体

- ・ リアルな作品展ができてよかった。
- ・ 日頃から取り組んできたことに発表の場があることはとても大切と感じた。
- ・ 作品展の見学の際、自身の作品を見つけた利用者の表情がとてもよかった。
- ・ 来場者に施設の活動や作品の素晴らしさを知ってもらいきっかけとなった。
- ・ 販売させていただいた場所が良く好調な売上となり、利用者の方々も大変喜んでいる。可能であれば、来年度も同じような場所に出店したい。

（2）来場者

- ・ デザインの発想力がすばらしい。見ていて楽しくなった。
- ・ 共生社会のためにも大切な企画です。次年度も期待しています。
- ・ 初めてしりました。これからも続けてください

件名	<b>足立区孤立ゼロプロジェクト推進活動の実施状況について</b>																																																	
所管部課	絆づくり担当部 絆づくり担当課																																																	
内 容	<b>1 孤立ゼロプロジェクト推進活動実施町会・自治会について【令和4年12月末日現在】</b>																																																	
	<table border="1"> <tr> <th>調査終了町会・自治会数</th> <th>終了率</th> </tr> <tr> <td>2目以降：368団体</td> <td>83.8%</td> </tr> </table>		調査終了町会・自治会数	終了率	2目以降：368団体	83.8%	<b>※ 全町会・自治会で1回目調査終了100%達成（平成30年3月末）</b>																																											
	調査終了町会・自治会数	終了率																																																
	2目以降：368団体	83.8%																																																
	<b>2 高齢者実態調査実施状況について（累計）【令和4年12月末日現在】</b>																																																	
<table border="1"> <tr> <th colspan="4">調査世帯合計：49,657世帯（60,972人）</th> </tr> <tr> <th>孤立なし</th> <th>A 孤立のおそれ</th> <th>B 入院・不在等</th> <th>C 不同意</th> </tr> <tr> <td>36,111世帯 (45,125人) 72.8%</td> <td>5,968世帯 (7,444人) 12.0%</td> <td>5,087世帯 (5,392人) 10.2%</td> <td>2,491世帯 (3,011人) 5.0%</td> </tr> </table>				調査世帯合計：49,657世帯（60,972人）				孤立なし	A 孤立のおそれ	B 入院・不在等	C 不同意	36,111世帯 (45,125人) 72.8%	5,968世帯 (7,444人) 12.0%	5,087世帯 (5,392人) 10.2%	2,491世帯 (3,011人) 5.0%																																			
調査世帯合計：49,657世帯（60,972人）																																																		
孤立なし	A 孤立のおそれ	B 入院・不在等	C 不同意																																															
36,111世帯 (45,125人) 72.8%	5,968世帯 (7,444人) 12.0%	5,087世帯 (5,392人) 10.2%	2,491世帯 (3,011人) 5.0%																																															
<b>【調査世帯数内訳】</b> 70歳以上単身：38,263世帯 75歳以上のみ：11,394世帯																																																		
<b>令和4年度の高齢者実態調査実施状況</b>																																																		
<table border="1"> <tr> <th>調査実施団体</th> <th>調査世帯合計（人数）</th> </tr> <tr> <td>22団体</td> <td>1,353世帯（1,691人）</td> </tr> </table>		調査実施団体	調査世帯合計（人数）	22団体	1,353世帯（1,691人）	※ 調査中の世帯を含む																																												
調査実施団体	調査世帯合計（人数）																																																	
22団体	1,353世帯（1,691人）																																																	
<b>3 調査世帯のその後の対応について【令和4年12月末日現在】</b>																																																		
地域社会や支援につながった方：4,783世帯（累計、下記太枠内）																																																		
<b>※ 令和4年4月（前回報告）以降つながった方：153世帯</b>																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">地域包括支援センターにより状況確認中</th> <th rowspan="2">孤立状態ではないと判断</th> <th colspan="4">地域社会や支援につながった</th> <th rowspan="2">小計</th> </tr> <tr> <th>絆のあんしん協力員の訪問</th> <th>地域包括支援センターによる支援</th> <th>介護保険サービス開始</th> <th>地域社会とつながった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 孤立のおそれ 5,968世帯</td> <td>103世帯 (1.7%)</td> <td>3,565世帯 (59.7%)</td> <td>8世帯 (0.1%)</td> <td>247世帯 (4.1%)</td> <td>1,105世帯 (18.5%)</td> <td>940世帯 (15.8%)</td> <td>2,300世帯</td> </tr> <tr> <td>B 入院・不在等 5,087世帯</td> <td>202世帯 (4.0%)</td> <td>3,405世帯 (66.9%)</td> <td>1世帯 (0.1%)</td> <td>277世帯 (5.4%)</td> <td>562世帯 (11.0%)</td> <td>640世帯 (12.6%)</td> <td>1,480世帯</td> </tr> <tr> <td>C 不同意 2,491世帯</td> <td>66世帯 (2.6%)</td> <td>1,422世帯 (57.1%)</td> <td>2世帯 (0.1%)</td> <td>199世帯 (8.0%)</td> <td>327世帯 (13.1%)</td> <td>475世帯 (19.1%)</td> <td>1,003世帯</td> </tr> <tr> <td>合計 (A+B+C) 13,546世帯</td> <td>371世帯 (2.7%)</td> <td>8,392世帯 (62.0%)</td> <td>11世帯 (0.1%)</td> <td>723世帯 (5.3%)</td> <td>1,994世帯 (14.7%)</td> <td>2,055世帯 (15.2%)</td> <td>4,783世帯</td> </tr> </tbody> </table>								地域包括支援センターにより状況確認中	孤立状態ではないと判断	地域社会や支援につながった				小計	絆のあんしん協力員の訪問	地域包括支援センターによる支援	介護保険サービス開始	地域社会とつながった	A 孤立のおそれ 5,968世帯	103世帯 (1.7%)	3,565世帯 (59.7%)	8世帯 (0.1%)	247世帯 (4.1%)	1,105世帯 (18.5%)	940世帯 (15.8%)	2,300世帯	B 入院・不在等 5,087世帯	202世帯 (4.0%)	3,405世帯 (66.9%)	1世帯 (0.1%)	277世帯 (5.4%)	562世帯 (11.0%)	640世帯 (12.6%)	1,480世帯	C 不同意 2,491世帯	66世帯 (2.6%)	1,422世帯 (57.1%)	2世帯 (0.1%)	199世帯 (8.0%)	327世帯 (13.1%)	475世帯 (19.1%)	1,003世帯	合計 (A+B+C) 13,546世帯	371世帯 (2.7%)	8,392世帯 (62.0%)	11世帯 (0.1%)	723世帯 (5.3%)	1,994世帯 (14.7%)	2,055世帯 (15.2%)	4,783世帯
	地域包括支援センターにより状況確認中	孤立状態ではないと判断	地域社会や支援につながった							小計																																								
			絆のあんしん協力員の訪問	地域包括支援センターによる支援	介護保険サービス開始	地域社会とつながった																																												
A 孤立のおそれ 5,968世帯	103世帯 (1.7%)	3,565世帯 (59.7%)	8世帯 (0.1%)	247世帯 (4.1%)	1,105世帯 (18.5%)	940世帯 (15.8%)	2,300世帯																																											
B 入院・不在等 5,087世帯	202世帯 (4.0%)	3,405世帯 (66.9%)	1世帯 (0.1%)	277世帯 (5.4%)	562世帯 (11.0%)	640世帯 (12.6%)	1,480世帯																																											
C 不同意 2,491世帯	66世帯 (2.6%)	1,422世帯 (57.1%)	2世帯 (0.1%)	199世帯 (8.0%)	327世帯 (13.1%)	475世帯 (19.1%)	1,003世帯																																											
合計 (A+B+C) 13,546世帯	371世帯 (2.7%)	8,392世帯 (62.0%)	11世帯 (0.1%)	723世帯 (5.3%)	1,994世帯 (14.7%)	2,055世帯 (15.2%)	4,783世帯																																											
※ 調査後の転出・死亡等5,703世帯含む																																																		

#### 4 「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」について

日常的に見守りや声かけを行う町会・自治会等に、区が見守り応援グッズを提供し、自主的な見守り活動を支援している。見守り活動には、戸別訪問、集会室や会館を使った居場所づくりなどがある。

##### (1) 実施団体数【令和4年12月末日現在】

実施団体	① 集合住宅のみの町会・自治会	② ①以外の町会・自治会	マンション管理組合
105 団体	56 団体	47 団体	2 団体

※ 令和4年4月（前回報告）以降 新規実施：9団体 辞退：0団体

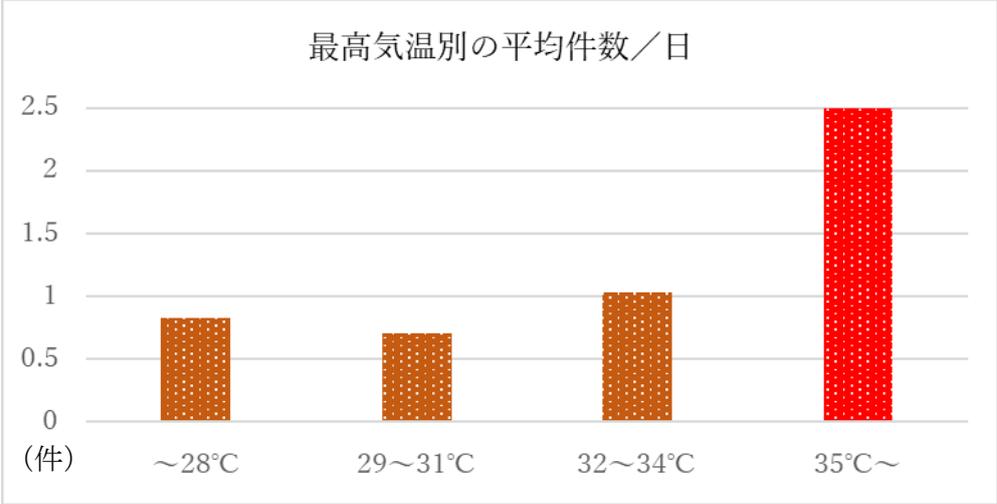
##### (2) 実施内容

声かけ訪問		居場所づくり	
戸別訪問（行事参加促進など）	55	カラオケ	14
敬老祝い訪問	53	脳トレや簡単な体操	7
清掃活動	23	お茶飲み会	9
ラジオ体操	8	グランドゴルフ	5
避難訓練	2	認知症カフェ	2
その他 （行事欠席者への訪問など）	9	その他サロン活動	20

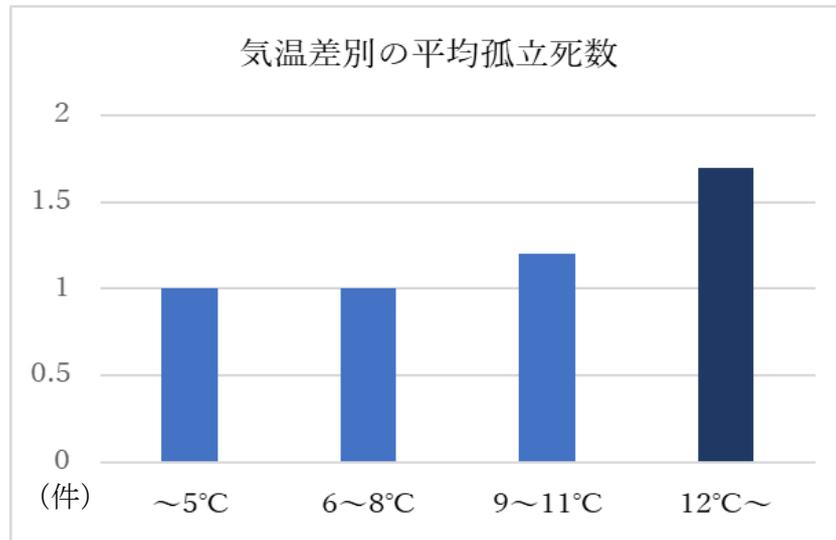
※ 数字は団体数（重複あり）

#### 5 令和4年度の孤立ゼロプロジェクトの取組みについて

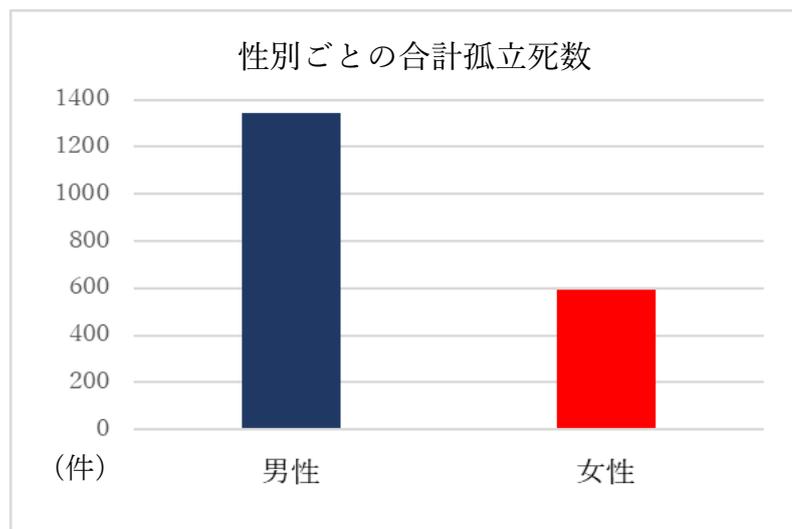
- (1) 町会・自治会による高齢者実態調査を22団体（調査対象1,353世帯）で実施。
- (2) 各地域包括支援センター（25カ所）で絆のあんしんネットワーク連絡会を実施。
- (3) 絆のあんしんネットワーク合同研修会を令和4年10月31日に実施。
- (4) 絆のあんしんネットワークづくりに貢献した絆のあんしん協力員58名・絆のあんしん協力機関12団体に対し、令和4年11月16日のビューティフル・パートナー感謝状贈呈式時に感謝状を贈呈。

件名	足立区の高齢者孤立死のデータ分析結果について																																						
所管部課	絆づくり担当部 絆づくり担当課																																						
内容	<p>東京都監察医務院から提供があった令和3年の高齢者孤立死データ（平成28年～令和3年）を、資料7-1「足立区の高齢者孤立死データ分析結果」のとおりまとめたので報告する。</p> <p>なお、孤立死の定義は「<u>単身者が自宅で死亡した場合</u>」とする。</p> <p>1 集計結果の主な概要</p> <p>(1) 令和3年の高齢者孤立死数は314人で前年より70人（18%）減少</p> <table border="1" data-bbox="488 840 1294 1196"> <thead> <tr> <th></th> <th>孤立死数 (人)</th> <th>高齢者人口 (人)</th> <th>孤立死増加率 (対前年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年</td> <td>282</td> <td>165,910</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成29年</td> <td>270</td> <td>168,323</td> <td>-3.6%</td> </tr> <tr> <td>平成30年</td> <td>336</td> <td>169,994</td> <td>24.4%</td> </tr> <tr> <td>令和元年</td> <td>349</td> <td>170,890</td> <td>3.6%</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>384</td> <td>171,378</td> <td>6.6%</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>314</td> <td>171,715</td> <td>-18.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 夏季の最高気温が35℃以上で孤立死リスクは2.8倍</p>  <p>最高気温別の平均件数/日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最高気温</th> <th>平均件数/日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>～28℃</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>29～31℃</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>32～34℃</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>35℃～</td> <td>2.8</td> </tr> </tbody> </table>		孤立死数 (人)	高齢者人口 (人)	孤立死増加率 (対前年)	平成28年	282	165,910		平成29年	270	168,323	-3.6%	平成30年	336	169,994	24.4%	令和元年	349	170,890	3.6%	令和2年	384	171,378	6.6%	令和3年	314	171,715	-18.2%	最高気温	平均件数/日	～28℃	0.8	29～31℃	0.7	32～34℃	1.0	35℃～	2.8
	孤立死数 (人)	高齢者人口 (人)	孤立死増加率 (対前年)																																				
平成28年	282	165,910																																					
平成29年	270	168,323	-3.6%																																				
平成30年	336	169,994	24.4%																																				
令和元年	349	170,890	3.6%																																				
令和2年	384	171,378	6.6%																																				
令和3年	314	171,715	-18.2%																																				
最高気温	平均件数/日																																						
～28℃	0.8																																						
29～31℃	0.7																																						
32～34℃	1.0																																						
35℃～	2.8																																						

(3) 冬季の最高気温と最低気温の差が12℃以上で孤立死リスクは1.5倍



(4) 性別では男性の孤立死リスクは女性の2.3倍



※平成28年から令和3年の合計数



# 足立区の高齢者孤立死 データ分析結果

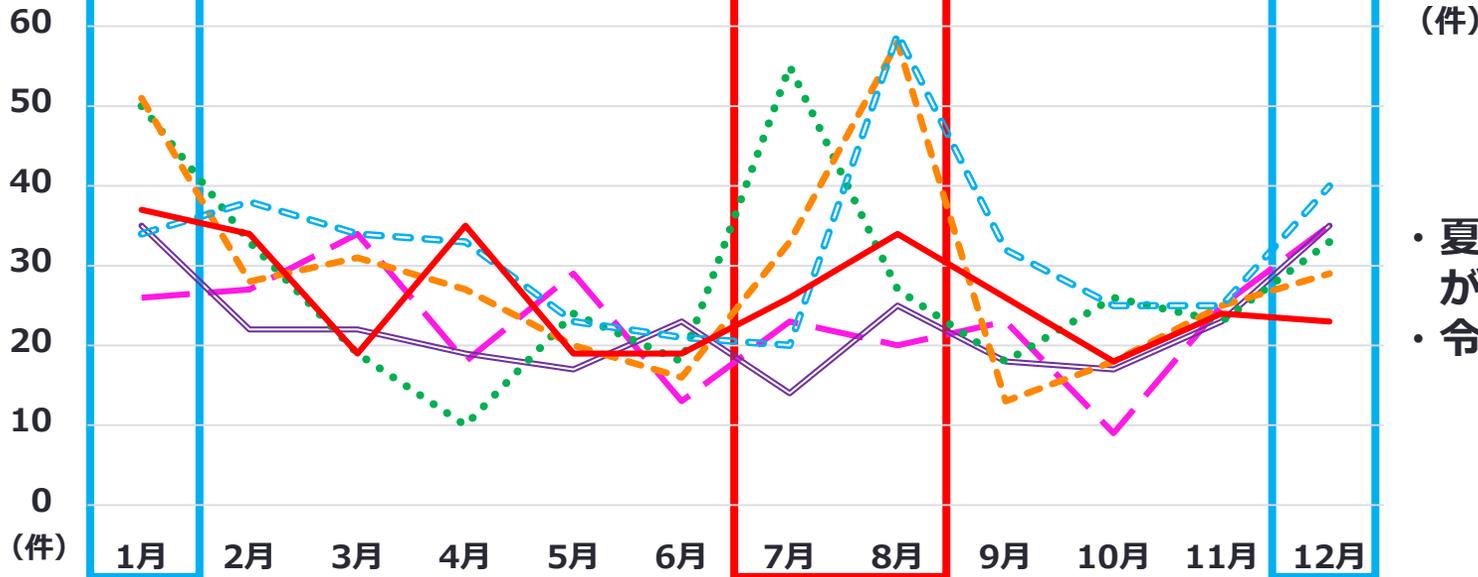
データ出典：東京都監察医務院提供データ(平成28年～令和3年)  
当分析では、「単身者の自宅での死亡」を「孤立死」と定義します。

# ■■■■ 目次 ■■■■

<b>1 死亡時期別の集計結果</b>	
(1) 月別高齢者孤立死件数	(P 3)
(2) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最高気温別)	(P 4)
(3) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最低気温別)	(P 5)
(4) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(気温差、平均気温別)	(P 6)
(5) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(状況別)	(P 7)
<b>2 性別による集計</b>	(P 8)
<b>3 コロナ禍における変化</b>	(P 9)
<b>4 集計結果・分析結果</b>	(P 10)
<b>5 今後の取り組み</b>	(P 11)

# 1-(1) 月別高齢者孤立死件数

年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	高齢者人口	高齢者増加率(対前年)	高齢者孤立死増加率(対前年)	高齢者千人当たりの孤立死件数
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282	165,910人	+1.9%		1.7件
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270	168,323人	+1.5%	-3.6%	1.6件
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336	169,994人	+1.0%	+24.4%	2.0件
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	18	25	29	349	170,890人	+0.5%	+3.6%	2.0件
令和2年	34	38	34	33	23	21	20	59	32	25	25	40	384	171,378人	+0.3%	+6.6%	2.2件
令和3年	37	34	19	35	19	19	26	34	26	18	24	23	314	171,715人	+0.2%	-18.2%	1.8件
合計	233	182	159	142	132	110	171	223	130	113	145	195	1935				



— 平成28年 — 平成29年 ..... 平成30年 - - - 令和元年 - - - 令和2年 — 令和3年

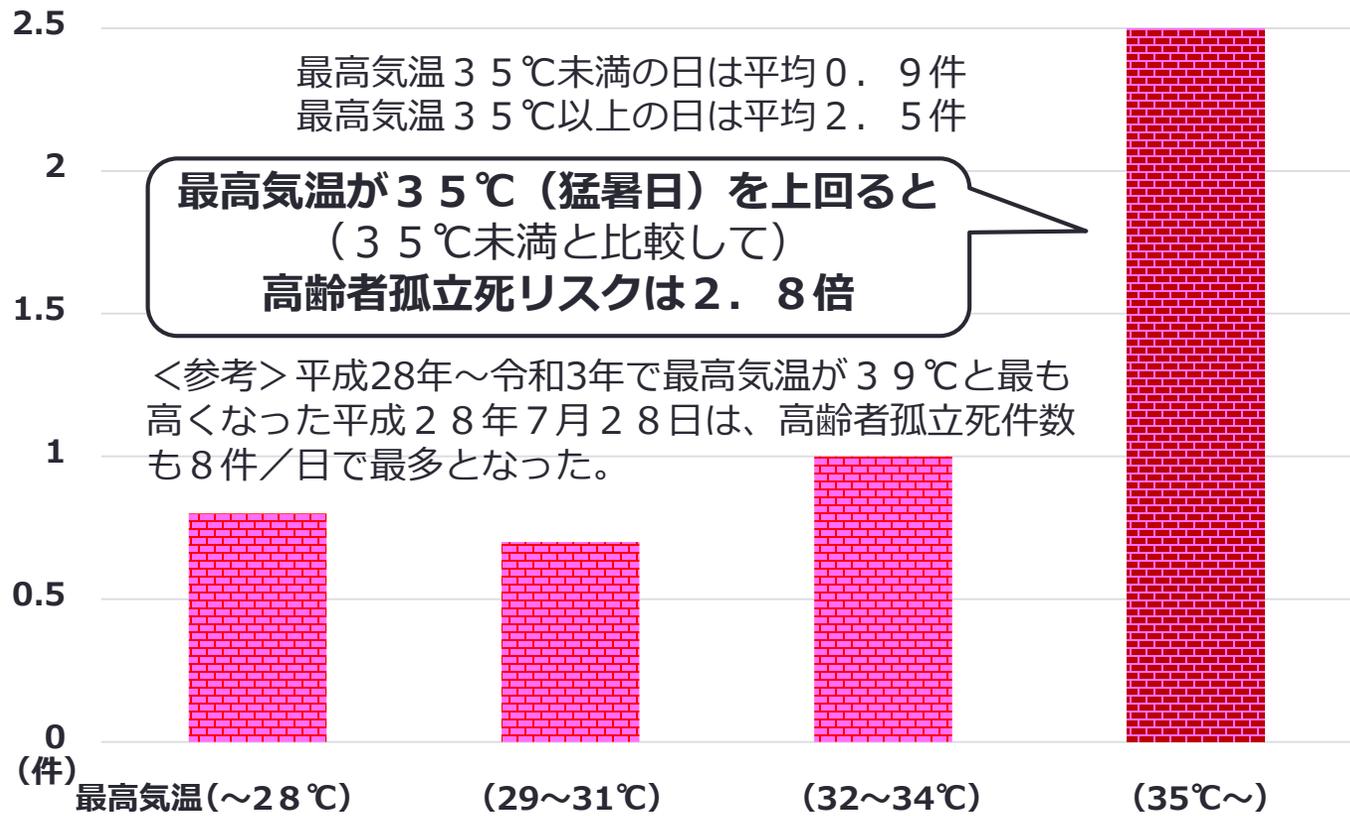
平成30年以降増加していたが、令和3年は減少に転じた

- ・夏季（7月、8月）、冬季（1月、12月）は件数が増加する傾向は継続している。
- ・令和3年は特に8月の件数が減少している。



# 1-(2) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最高気温別)

最高気温別の平均件数/日



最高気温が35℃(猛暑日)を上回ると(35℃未満と比較して)高齢者孤立死リスクは2.8倍

<参考>平成28年～令和3年で最高気温が39℃と最も高くなった平成28年7月28日は、高齢者孤立死件数も8件/日で最多となった。

夏季は**最高気温と関連性**が見られる。

**新規**

最高気温の出現数

最高気温出現数	～28℃	29～31℃	32～34℃	35℃～	最高気温 平均値
平成28年	17日	21日	21日	3日	31℃
平成29年	13日	18日	29日	2日	31℃
平成30年	9日	11日	30日	12日	33℃
令和元年	22日	15日	15日	10日	30℃
令和2年	19日	14日	18日	11日	31℃
令和3年	14日	14日	32日	2日	31℃

**新規**

最高気温別の高齢者孤立死件数

高齢者孤立死件数	～28℃	29～31℃	32～34℃	35℃～	件数 合計
平成28年	13件	14件	15件	1件	43件
平成29年	13件	11件	12件	3件	39件
平成30年	9件	7件	31件	35件	82件
令和元年	20件	17件	24件	30件	91件
令和2年	16件	6件	28件	29件	79件
令和3年	7件	11件	40件	2件	60件

32～34℃、35℃～の上位3位に網かけ

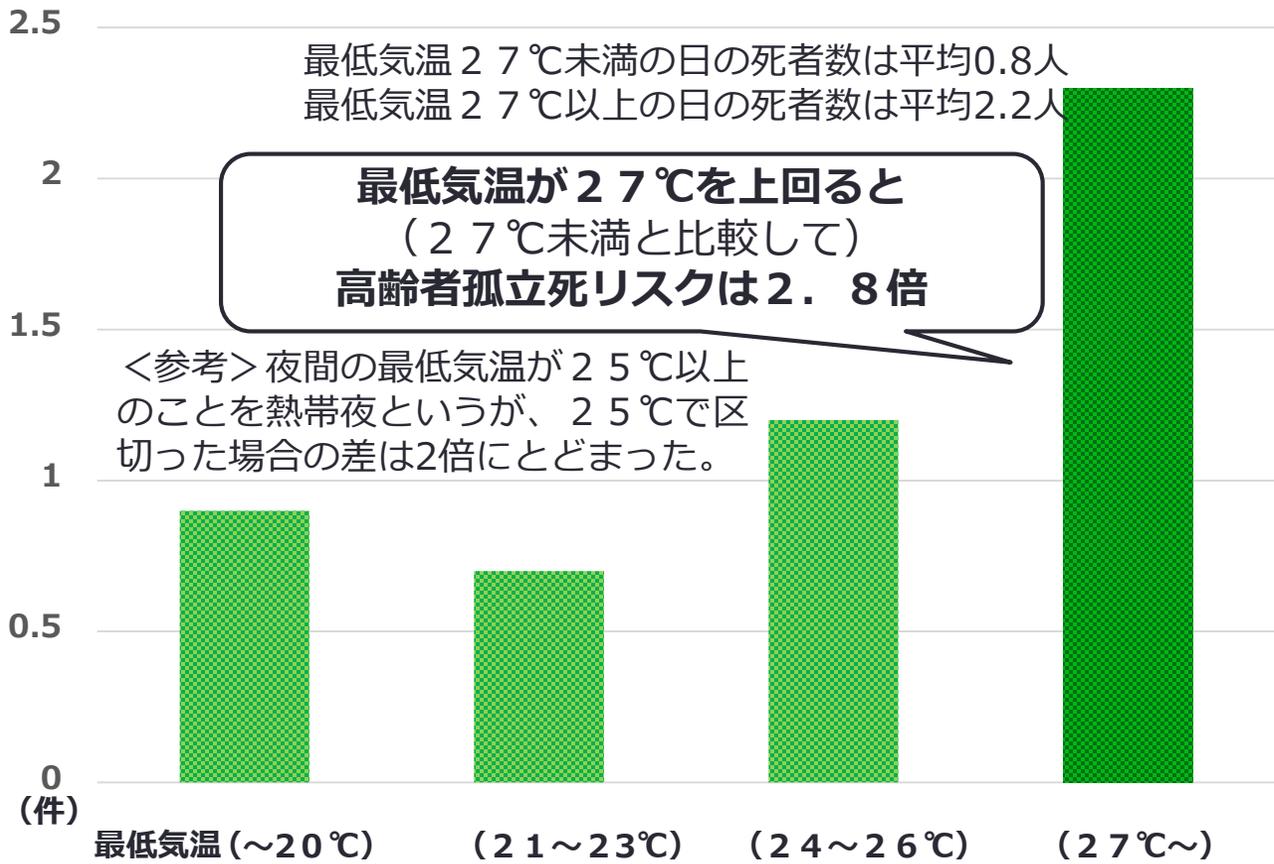
- 各年で最高気温の平均値に大きな変化は無いが、**最高気温(32℃以上)の出現数と高齢者孤立死件数**に関連性が見られる。
- 令和3年は最高気温が35℃を上回った日数が少なかったことが件数減少の一因**と考えられる。



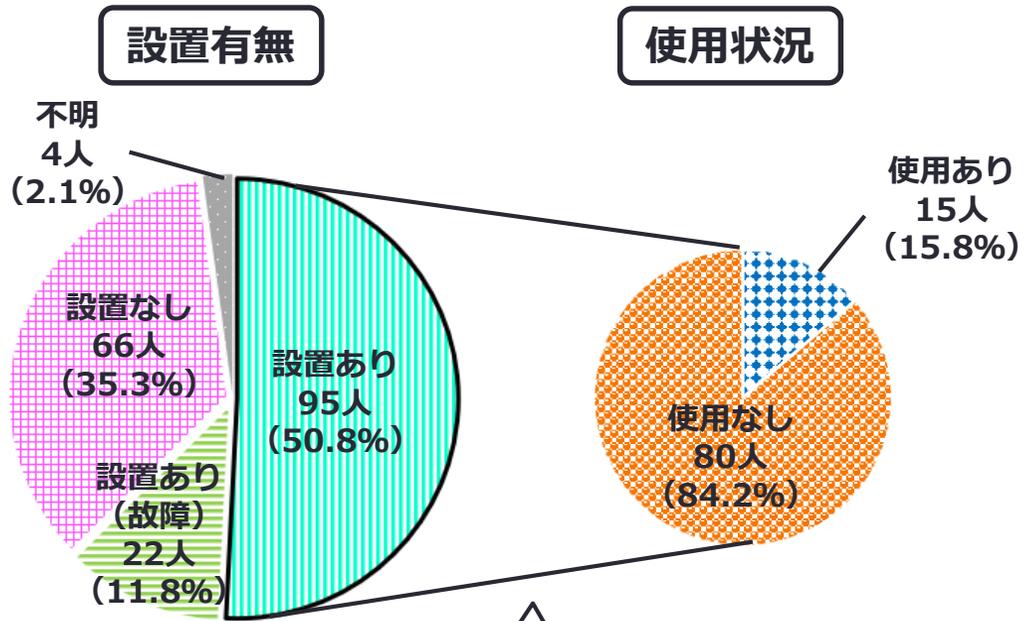
# 1-(3) 夏季(7月・8月)の高齢者孤立死(最低気温別)

## 新規 最低気温別の平均件数/日

夏季は最低気温にも関連性が見られる。



## 熱中症死亡者(屋内)のエアコン設置有無および使用状況 (令和2年6~9月(特別区内全域、世帯構成・年齢不問))



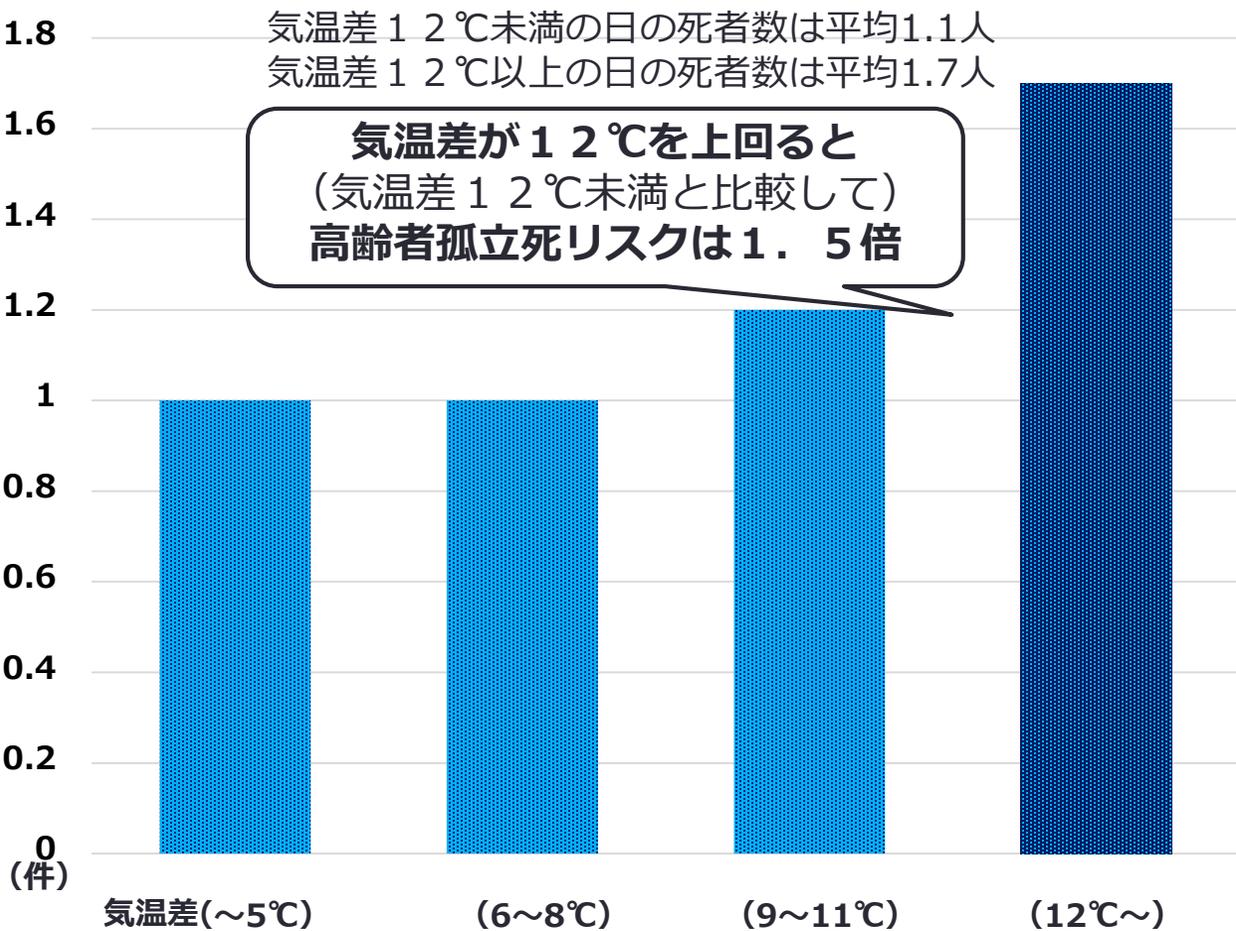
エアコンが使用できる状況であった熱中症死亡者のうち、84.2%は使用していなかった。



# 1-(4) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(気温差、平均気温別)

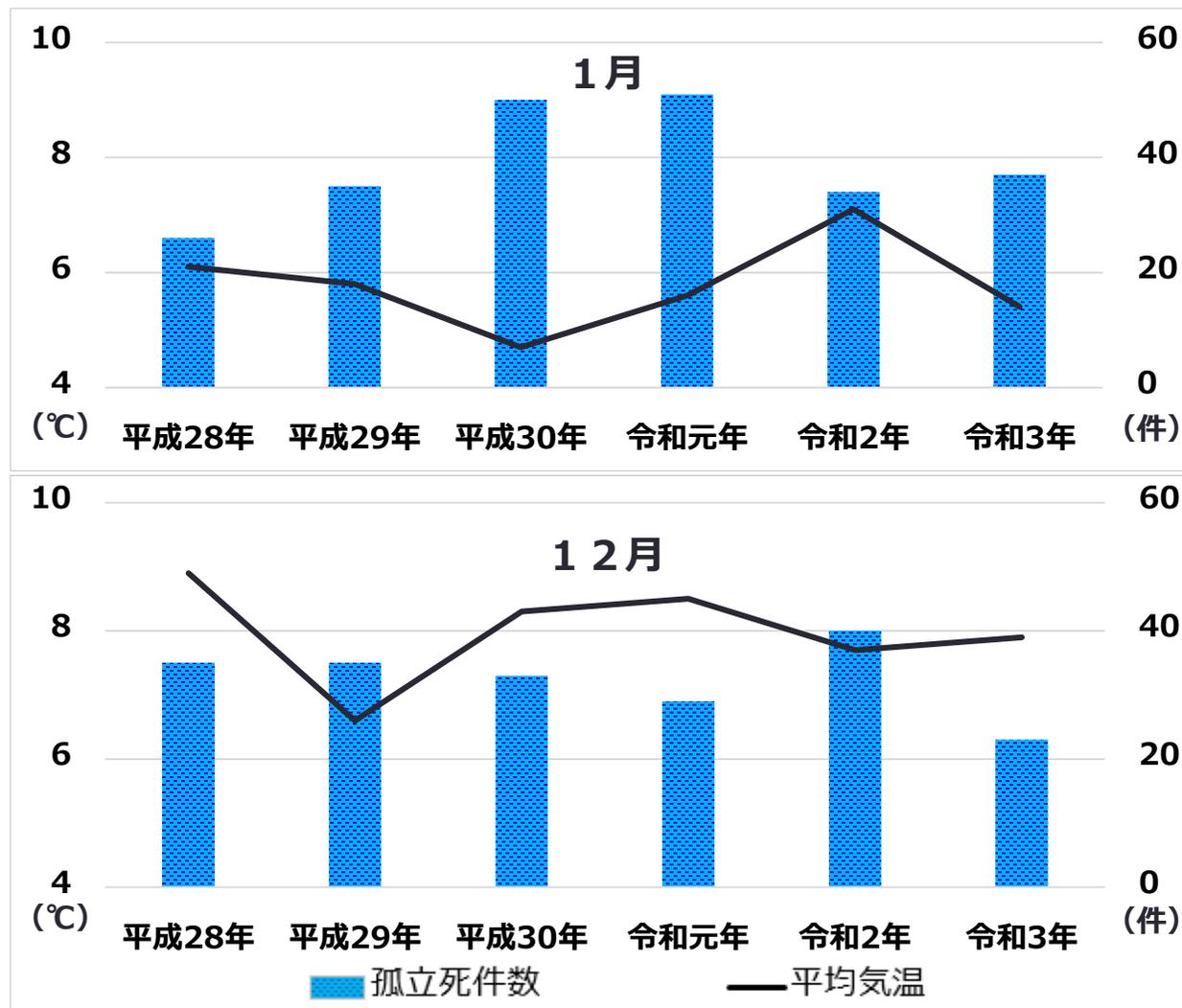
## 気温差(最高気温-最低気温)別の平均

冬季は最高気温と最低気温の気温差に関連性が見られる。



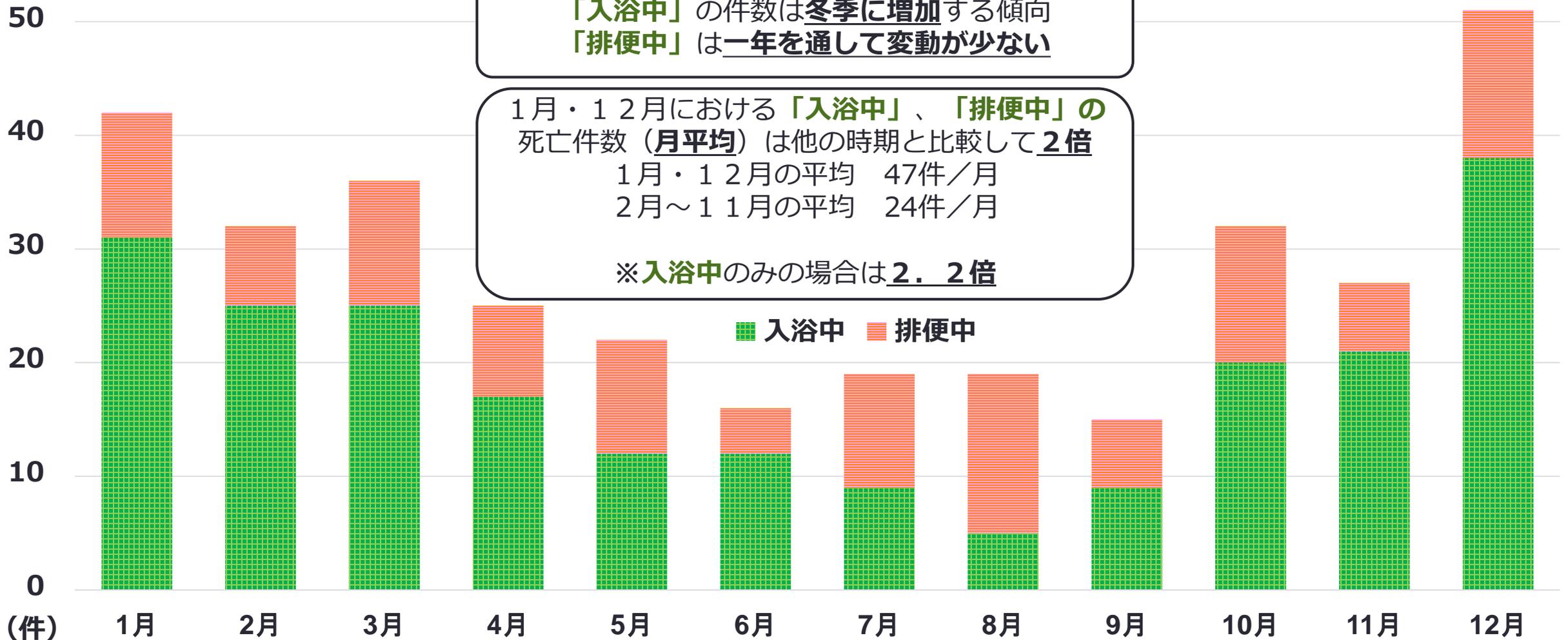
## 新規 月の平均気温別の件数

冬季は月の平均気温と件数の関連性は見られない。



# 1-(5) 冬季(1月・12月)の高齢者孤立死(状況別)

**新規** 死亡直前の状況が「入浴中」、「排便中」であった件数(合計)



「入浴中」の件数は冬季に増加する傾向  
「排便中」は一年を通して変動が少ない

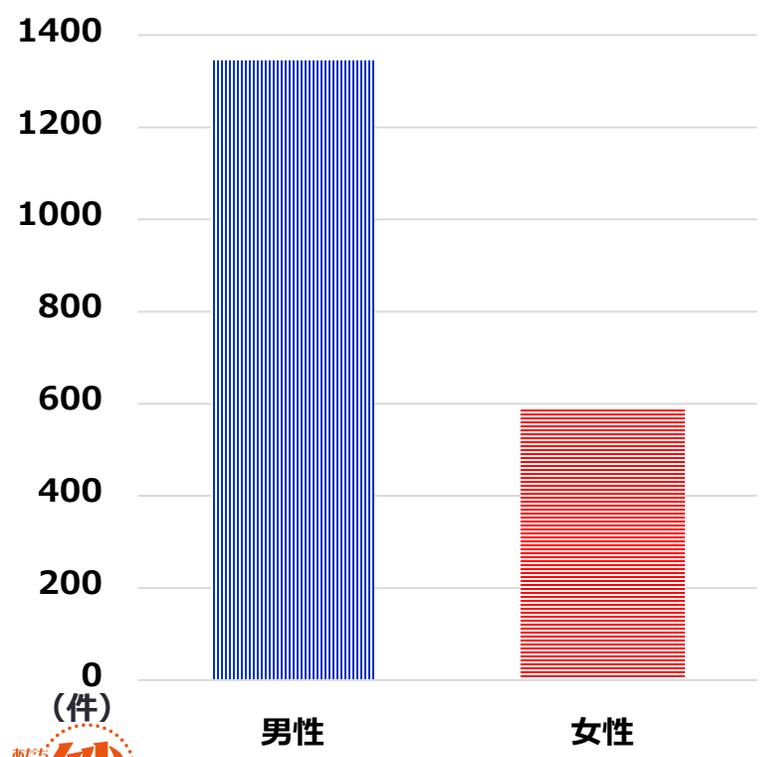
1月・12月における「入浴中」、「排便中」の死亡件数(月平均)は他の時期と比較して2倍  
 1月・12月の平均 47件/月  
 2月～11月の平均 24件/月  
 ※入浴中のみの場合は2.2倍

■ 入浴中 ■ 排便中

# 2 性別による集計

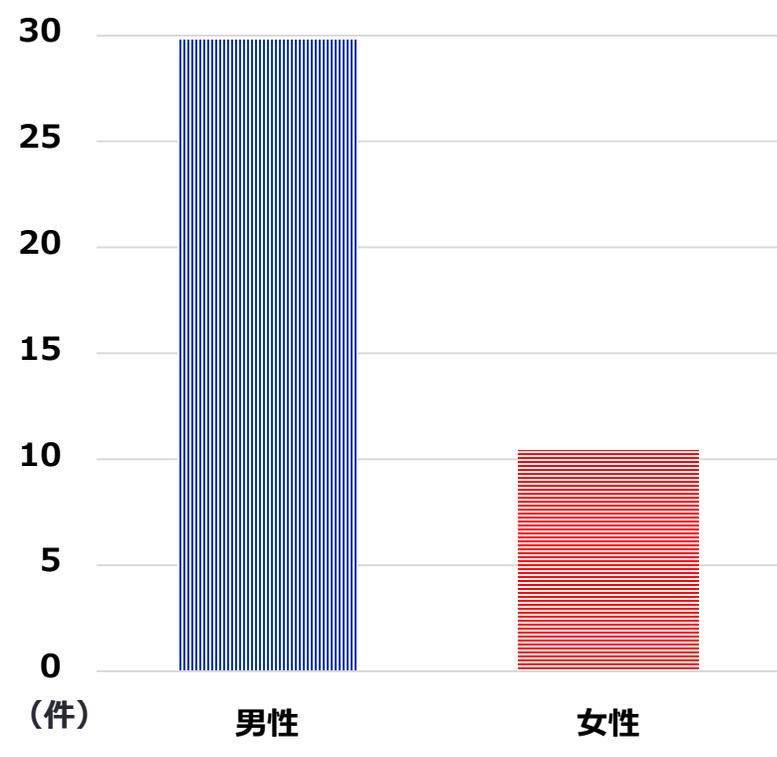
●性別ごとの高齢者孤立死件数  
(平成28年～令和3年の合計)

男性1,343件 女性592件  
男性の方が2.3倍多い



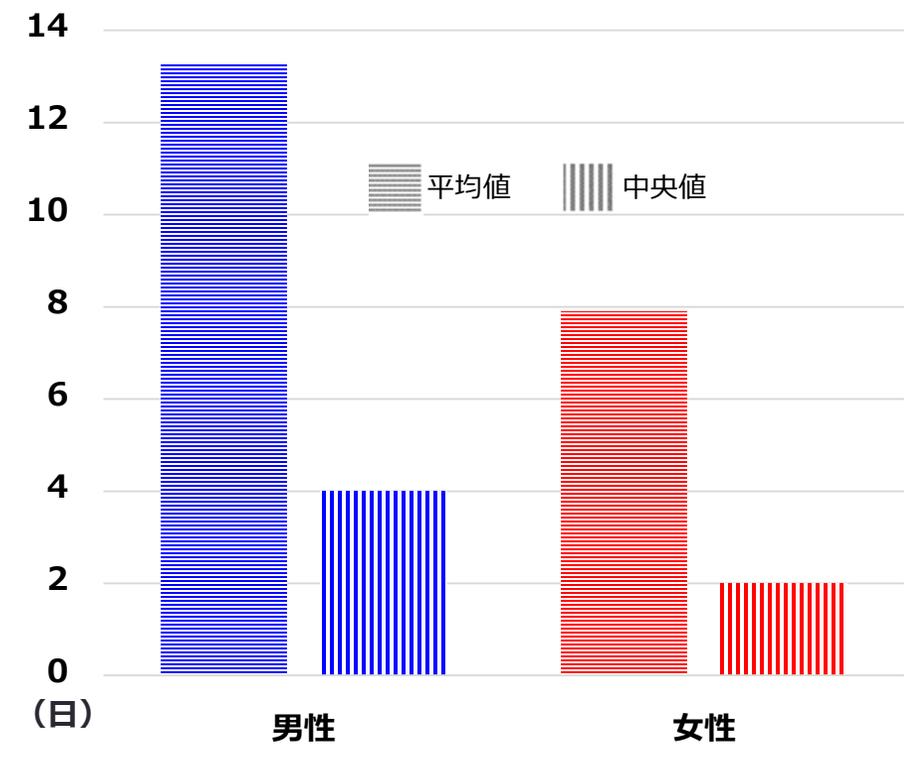
●性別ごとの高齢者1万人当たりの  
高齢者孤立死件数  
(平成28年～令和3年の合計)

男性29.8件 女性10.4件  
男性の方が2.9倍多い



●性別ごとの死後経過日数 (平成28年～令和3年)

【平均値】男性13.3日 女性7.9日  
【中央値】男性4.0日 女性2.0日  
※中央値とは値を昇(降)順に並べたときに中央の順位にくる値  
いずれも男性の方が期間を要している。  
また、30日以上経過は85%が男性であった。

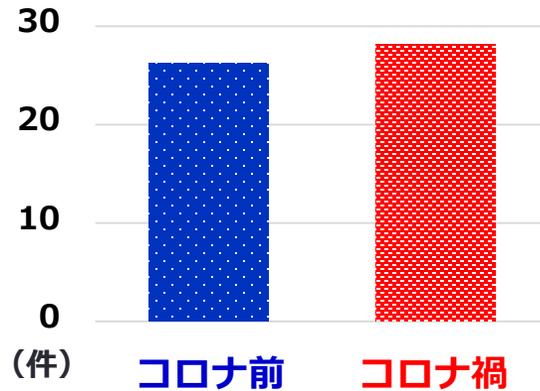


# 3 コロナ禍における変化

死亡日において、平成28年1月～令和2年3月を**コロナ前**、令和2年4月以降を**コロナ禍**と定義する。

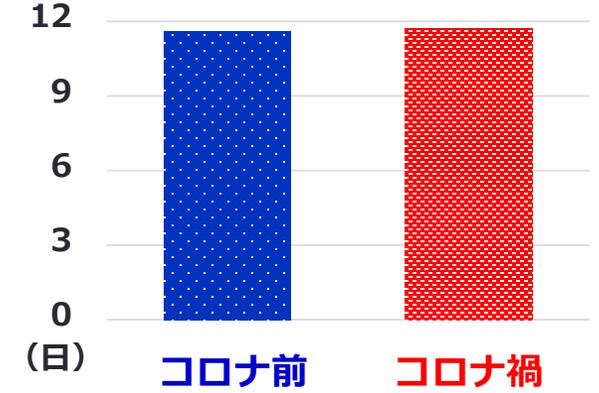
## ●発生件数（月平均）

**コロナ前** 26.3件  
**コロナ禍** 28.2件  
 →7%増加

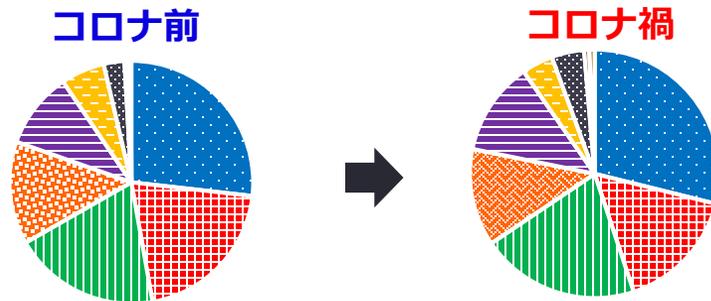


## ●死後経過平均日数

**コロナ前** 11.6日  
**コロナ禍** 11.7日  
 →1%増加

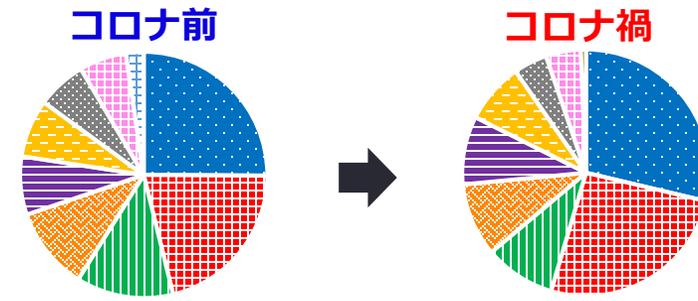


## ●発見者の割合 →特段の変化なし



- 家族
- 隣人
- 保健・福祉関係者
- 知人
- 管理人
- 配達人
- その他
- 通行人
- 警察官
- 家政婦

## ●発見の経緯の割合 →特段の変化なし



- その他
- 電話応答なし
- 配達物遅滞
- 無断欠勤
- 異臭
- 日常生活中
- 姿を見かけない
- 偶然の目撃
- 不審音・電気つけっぱなし

# 4 集計結果・分析結果

	集計結果	分析結果
時期別	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年以降は件数が増加していたが、令和3年は減少に転じた。(P3)</li> <li>冬季(1月・12月)、夏季(7月・8月)は件数が増加する傾向。(P3)</li> <li>夏季(7月・8月)の件数は最高気温と関連性が見られ、最高気温が35℃(猛暑日)を上回ると、件数が2.8倍になった。また、32℃以上の出現数、最低気温にも件数との関連性が見られた。(P4～5)</li> <li>冬季(1月・12月)の件数は最高気温と最低気温の気温差に関連性が見られ、気温差が12℃を上回ると、件数が1.5倍になった。(P6)</li> <li>冬季(1月・12月)は「入浴中」または「排便中」の月平均件数が2倍になった。(P7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年は35℃以上(猛暑日)となった日数が直近3年平均の1/5以下となったことも件数減少の一因と考えられる。(P4)</li> <li>夏季は最高気温、最低気温のいずれとも件数との関連性があった。(P4～5)</li> <li>件数が増加する夏季・冬季は、気温との関連性が顕著なため、今後、区としてできる対策を検討・周知することで件数を減少できる可能性がある。(P4～6)</li> <li>冬季(1月・12月)は気温差と件数に関連性があった。冬季に増加する「入浴中」または「排便中」の件数増加についてはヒートショックとの関連性も考えられる。(P7)</li> </ul>
男女別	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口当たりの高齢者孤立死件数は男性が2.9倍多い。(P8)</li> <li>発見までに要した平均経過日数には、男性は1.7倍の期間を要していた。また、30日以上経過したケースは85%が男性だった。(P8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口当たりの高齢者孤立死件数、発見までに要した平均経過日数は女性に比べ、男性が大幅に上回った。ピンポイントの対策により、防止効果が期待できる。(P8)</li> </ul>
コロナ禍	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ前に比べ、コロナ禍は月平均件数が7%増加した。その他(経過日数、発見者、発見の経緯)については特段の変化は無かった。(P9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍では発生件数の増加以外は特段大きな変化はなかった。今後(令和5年度以降)もコロナ禍における高齢者孤立死データ分析を継続する。</li> </ul>

## 5 今後の取り組み

- ア 高齢者の相談窓口である地域包括支援センターおよび地域の見守りを行っている関係機関に情報提供し、孤立死が増加する夏季・冬季に重点的に地域の見守りを依頼していく。また、ながら見守りを管轄している危機管理課と連携し、絆のあんしん協力員などの登録を呼びかけ、日常生活での気づきの目を増やす。
- イ 孤立死の現状について、絆のあんしんネットワーク連絡会などの場で本分析を活用してもらうことにより、区民への周知・啓発を進めていく。特に孤立死件数が増加する夏季・冬季に重点的に広報等による周知を図る。
- ウ コロナ禍における孤立死増加の有無については、令和4年中の孤立死の状況も確認する必要があるため、令和5年度も引き続き分析を進める。
- エ 環境政策課（エアコン購入費補助金）、建築防災課（浴室暖房設置工事費助成）、衛生管理課などの関係所管と情報共有を進め、より効果的な孤立死対策について検討していく。